竜の子奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER

第21回交流会 第７回贈呈式にて

Contents

P.2 一語一会
「アジアの国に広がれ、障害者スポーツ」
P.3 第21回交流会レポート
（卒業式・贈呈式）
P.5 第21回交流会レポート
（祝賀会）

その夢は、きっと世界を変えていく

The dream surely changes the world.

Sports of Heart ボランティアにて

Sports of Heart ステージにて

P.8 平成25年度新入生紹介
P.10 竜の子近況報告
P.14 ボランティア報告
P.15 SPECIAL REPORT
P.16 編集後記／お礼の言葉

第12号
Aug.2013

Tatsunoko Foundation

公益財団法人 竜の子財団

「アジアの国に広がれ、障害者スポーツ」

去る５月に障害者スポーツと音楽のイベントを代々木体育館で開催しました。その折に多くの竜の子奨学生の皆さんにボランティアとしてご参加いただきました。この場を借りて学生の皆さまと労を執っていただいた理事長はじめ、事務局の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

私は「国や地域、年齢、性別、障害、職業などの区別なく、すべての人が幸せに暮らせる社会づくり」を目指し、2005年にNPO法人STANDを設立しました。その中で特に障害者スポーツを広める事業に注力しています。そして、今年新たに立ち上げたのが「キッズ・チャレンジ・プロジェクト」です。身体・知的・精神に障害のある子ども、健常の子どももみんなで一緒にスポーツしよう、というものです。この活動で子どもたちを見ていると、どの子がどんな障害があるのか、またはないのか見分けがつかなくなります。そのくらいどの子どももみんな、本当に楽しそうです。彼らには障害があるかないかは関係ないのです。子どもにとっては障害の種類や有無を意識しない遊びの経験が、まさにユニバーサルな概念のきっかけとなるはずです。彼らが大人になった時、日本にユニバーサル社会が実現すると確信しています。

そんな体験ができる場を広めるきっかけにしたいと開催したのが前述した５月のイベントです。ゴールデンウイークの２日間、15,000人の方が来場くださいました。多くの参加者から、「障害があってもなくても楽しくスポーツができることが分かった」との声をいただきました。

さて、竜の子の学生の皆さんの故郷であるアジアの国に目を転じてみます。国によっては障害のある人の生活の環境は良いとは言えないところもあります。偏見や差別の残っている国や地域も少なくありません。私たちはお隣のアジアの国々に障害があっても一緒に遊べるスポーツを広める計画を進めています。

スポーツを通じて、こうしてご縁をいただいたのを機に、学生の皆さんの母国で、一緒に活動ができたら、と考え始めています。皆さんはいま、まさに瑞々しい感性をもって日本での様々な体験を重ねていることでしょう。いろんな経験をされるその中で、もし障害者スポーツに興味を持ってくださる方がいらっしゃったら、と想像しています。その方の国で活動をご一緒できるのではないか、と思うとわくわくしてきます。そしてその日が近いうちに来ることを願って止みません。

株式会社パステルラボ　代表取締役社長
NPO法人STAND　代表理事
伊藤　数子

photo/Shugo Takemi

91年金沢市にて企画会社パステルラボ設立。代表取締役。車いす陸上競技の観戦が契機となり、2003年から電動車椅子サッカーなど競技大会のインターネットライブ中継を開始、誰もが明るく豊かに暮らす社会を実現するための「ユニバーサルコミュニケーション活動」のため05年NPO法人STANDを設立し障害者スポーツ事業を本格始動させる。「総務省u-Japanベストプラクティス」ほか多数受賞。現在、ウェブサイト「挑戦者たち」の編集長として障害者スポーツの魅力を配信。また、スポーツイベントや体験会も開催している。

＜著書＞
「ようこそ、障害者スポーツへ　パラリンピックを目指すアスリートたち」廣済堂出版　2012年８月
「大学は地域を活性化できるか」共著／中央経済社　2005年

●コミュニケーションプランナー
行政機関・企業におけるコンサルティングをはじめ、プロモーションの総合企画・マルチメディアコンテンツの開発等、人づくりからものづくりまでトータルにプランニング。

●ユニバーサルコミュニケーション活動
年齢・性別・障害・職業・国や地域の区別なく、すべての人が持てる力を発揮し、誇りある自立を得、ともに明るく豊かに暮らす社会を実現するための活動。企業の枠や仕事の領域を超え、それぞれの立場で経営資源や得意分野を活かしながら、高齢者や障害者や子どもたちのより豊かな生活のための活動を推進。

1991	パステルラボ設立
2005	金沢市ITビジネス大賞受賞
	NPO法人STAND設立
2006	総務省u-Japanベストプラクティス2006
	日経地域情報化大賞 CANフォーラム賞
2008	MCPCアワード 特別賞
	総務省u-Japanベストプラクティス2008
	石川県バリアフリー社会推進賞　最優秀賞
2009	MCF　モバイルプロジェクトアワード　奨励賞
2013	総務省北陸総合通信局長表彰
	総務省　情報通信審議会専門委員
	総務省　地域情報化アドバイザー
	内閣府　地域活性化伝道師
	石川県　中山間地域総合対策審査委員
	石川県　農地・水・環境保全向上第三者委員会委員
	財団法人石川県デザインセンター理事
	財団法人いしかわ女性基金運営委員
	石川県　地域づくり推進協会コーディネーター
	石川県　地域興しマイスター

2013年７月現在

第21回交流会レポート

2013年3月12日（火）に、竜の子奨学生11名が財団を卒業する日を迎えました。卒業生は会場の温かい拍手の中で入場し、迎えられました。式辞の後に秋元理事長は卒業生全員に記念品を贈りました。次に在籍奨学生を代表してマハルジャン・スニルさんが送辞を述べ、最後に卒業生代表の答辞で金智媛さんが寄付者の皆様及び当財団の関係者へ心より御礼を申し上げました。

第６回卒業式

式辞　秋元 竜弥 理事長

式辞を述べる秋元理事長

卒業生の皆さん、卒業おめでとう！本年度の卒業生は11名います。中には４年間も竜の子奨学生として頑張ってきた人もいます。数々の交流会を通じて深い思い出があります。

今年度の卒業生は、全員社会人としてそれぞれ企業に就職し、あるいは教育者として活躍していくと思いますが、今までの学生生活とは違った、辛いことや嫌なこともあると思います。

これからの社会人もしくは今後の人生において生き抜くために、それぞれ志というものを強く持っていただきたい。皆さんそれぞれ社会人になりますが、どの企業においても経営理念、経営目標があります。皆さんにもそれぞれ人生の目標があると思います。今回皆さんは卒業し、社会人となるわけですがそれは人生の目標の中の通過点にしかなりません。そこで皆さんに問いかけます。「皆さん人生の目的は何ですか？人生の目標ではなく、人生の目的とは何でしょうか？」おそらくこれを答えられる方は少ないと思います。私は親鸞上人の「人はなぜ生きる」という本の中で、人生の目的とは無明の闇を知恵の太陽で乗り越えて生きるという言葉に出会いました。無明とは何にも見えない真っ暗な闇のことです。私はその言葉に出会い、人生の目的あるいは人生の座標としたときから様々な壁を乗り越え、人生の軸をぶらすことなくここまでやって来れました。無明の闇は、これから人生において様々な障害となって現れてくるでしょう。その障害が訪れる度に知恵の太陽で乗り越えてください。皆さんは非常に優秀な学生であり、知識人でもあります。しかしながら知識ではなく、これから訪れる障害や悲しみ、苦しみを是非知恵の太陽で乗り越えてください。そしていつの日か必ず国際交流の掛け橋となってください。３年後のOB会で皆さんの元気に頑張っている姿が見られることを楽しみにしております。

送辞

東京電機大学　マハルジャン・スニル

送辞を贈るマハルジャン・スニルさん

これから皆様はそれぞれの違う道に進み、様々な分野で活躍されることでしょう。私の人生の中、竜の子奨学生になったことで同じ時間を過ごしたこと、このご縁に感謝しています。文化も違う、習慣も違う国からそれぞれ色々な夢を持って来日し、大学に入学しただけでは出会えなかった方々とずっと竜の子OBとして関係が続いていくことを望んでいます。

それぞれ進んだ道の先で辛いこともあると思いますが、竜の子奨学生の私たちは絶対に乗り越えられると信じています。卒業という夢の通過点を竜の子財団の方々も見守ってくれています。社会に貢献し、卒業生の名前を目にすることもあるかと思うと、楽しみです。そのときは、同じ竜の子奨学生だと自慢させて頂きますのでよろしくお願い致します。

答辞

一橋大学大学院　金　智媛

答辞を述べる金智媛さん

私が竜の子奨学生になったのは2009年、修士２年のことでした。この時期は修士論文に日々追われ、交流会への参加が煩わしいと感じたこともありました。しかし結論的にその年は博士課程進学に失敗してしまいました。また同時期大学で知り合い、付き合っていた今の夫と親の猛反対の中で結婚しました。そのような中でも頭の中はいつも論文のことで一杯。留年、国際結婚が追打ちをかけ、生活は落ち着かないものでした。それゆえいくどとなく研究も結婚生活もあきらめようと悩んだこともありました。そんな時、唯一私の救いであったのが竜の子財団の皆様でした。留年が決まり、何だか恥ずかしい感じで財団事務所に伺ったとき、長い人生色々あるもの、元気を出してくださいねとおっしゃってくださった理事長、また留年が決定し、奨学生の資格を失ったにもかかわらず翌年度も引続き奨学金を支給したいと連絡してくださった椎塚常

務理事、交流会をはじめいつも相談にいくと温かく迎えてくださる加藤さん、そして交流会のときにいつも気まずそうな様子の私に声をかけてくれたのは、竜の子奨学生の皆様でした。また後ろには私たち竜の子奨学生のことを支援してくださる寄付者の方々がいらっしゃるからこそ、私は現在も研究を続けることが出来ております。

さて話は変わり、皆様はそれぞれ夢をお持ちだと思いますが、それは本当に必ず叶えられるものでしょうか？私は夢というのは簡単に叶えられるものではなく、だからこそ夢というのではないかと思います。しかし大事なのは叶えられるかということより、それを目指して頑張っていくこと。私は夢を聞かれると、「一人前の研究者になり、大学の先生になることです。」と決まって答えますが、博士課程の一学生である私がこのような夢を叶えるのは容易いものではありません。しかし支援してくださる、応援してくださる皆様のことを忘れずに、少ない可能性だとしてもこの夢を持ち続けて行きたいと思います。最後に竜の子という家族の中に私達を入れてくださり、また自ら家族として接してくださり、ありがとうございました。これからいつまでも私は竜の子ということを忘れずに、日々の生活で頑張って行きたいと思います。

第21回交流会レポート

同日、京王プラザホテルにおいて第７回贈呈式が開催されました。今期新たに竜の子奨学生として選ばれた10名の留学生たちを迎えました。厳粛な雰囲気の中で、秋元理事長と小谷選考委員長から温かいお祝いの言葉を頂きました。新入奨学生を代表してイット・ウィサルさんが寄付者の皆様及び竜の子財団の関係者へ感謝の気持ちと夢に向かってこれからの決意を述べました。

● 第７回贈呈式 ●

式辞　秋元 竜弥 理事長

皆さんはこれから奨学金を受けることができるようになりました。これで落ち着いてそれぞれの研究に励めると思います。私は常日ごろから奨学生の皆さんに３つの豊かさの追求をしてくださいと言ってます。その３つとは、１つにこれから励んで各々の職場に就いて働くことによる経済的豊かさ、そしてもう１つは身体的豊かさ、そしてもう１つは一番大事な心の豊かさです。どれも欠除することなく、突出することなく、バランスを保ちながらこの３つの豊かさを追求してください。なぜならこの３つのバランスがとれれば、幸福感に満たされるからです。１つでも突出したり、欠除すると満たされてない結果になります。奨学金をもらって経済的には少し落ち着き、アルバイトなども含め前より身体的にも楽になると思います。

あとは心の豊かさの追求についてどうするかということです。竜の子財団ではこれを一番大事にしております。ちょうど、昨日で東日本大震災から２年が経ちました。今回東北地方に大変な被害がおよんだのですが、その時には多くの留学生もしくは外国人の方々が母国に帰ってしまいました。ただ、私どもの竜の子奨学生からは、是非私たちも東北地方へ行って被災された方々に支援をさせてくださいという話があがりました。今でも大変感銘を受け、深く感動したことと記憶に残っています。前日から炊き出しの準備をし、トラックやバスに同乗して宮城県女川町で1,500名分の炊き出しを行ってきました。新しく竜の子奨学生となった皆さんもこのように困っている人たちへ手をさしのべる勇気も持ってもらえばと思います。また、当財団は実に多くの皆様方からご支援をいただいて運営をしております。奨学生の皆さんは特に感謝の心を持ち続けてください。また、自分は決して一人ではなく竜の子の仲間達、そして多くの支援者の方々が皆さんを支えているということを常に胸に刻みながら、充実した学生生活を送ってもらいたいと思います。そしてキャッチフレーズである「その夢はきっと世界を変えていく」の言葉にあるように、皆さんの能力を国際友好親善、世界平和に役立てください。

選考結果報告

小谷 誠　選考委員長

選考結果を報告する
小谷選考委員長

今回選考に当たりまして東京外国大学の名誉教授の横田先生、一橋大学教授の五味先生、当財団理事長の秋元理事長さんと私の４名と、椎塚常務理事の５名で選考しました。一昨年から当財団は財団法人から公益財団法人になり、奨学生も当時は50名もいましたが半分くらいに減らし、非常に充実した形で、運営しております。秋元理事長の考え方は、一度竜の子奨学生になったら希望者は最後まで続けて欲しいとの意味で再申請も認めており、今回任期は終了ですが再申請した希望者は10名おりました。そのため新たに採用したのは10名でした。この10名については９つの大学に、各２名ずつ推薦を依頼し

ました。そして当財団の選考基準に従って選考しました。

私は脳の研究をずっとやっておりますが、脳というのは実は生まれたとき赤ちゃんの時、脳細胞がいっぱい集まっています。例えば、生まれて２－３年暗い部屋で育ったのなら残念ながら目が見えなくなります。それは目の神経がいらなくなったという風に判断して脳細胞が全部死んでしまうからです。例えば、世界的なスポーツの選手になりたいという人は、とにかく若いときから（脳細胞が死ぬ前に）使っているということが非常に大切なことです。そしてスポーツだけではなく、音楽やピアノを弾くことなど手を使うことをするのは小学に入る前からやらないと世界的なプレーヤーになれないということです。脳細胞の数というのは赤ちゃんの時は種で、それから目が出て葉っぱが出て１人前になるのですが、１人前の脳細胞というのは22歳まで全部終わる。それ以上脳細胞の数が増えないのです。そして40歳位まではそのままの数ですが、40歳を過ぎたときに段々減ってきて、もう60歳を過ぎたら１日に30万個くらい減って死んでいくのです。それでも人によっては脳を使っていれば脳細胞が減らないし、使っていないと本当に減るということを１つ覚えてください。

もう１つは選考時の問題に出しましたが「夢を持って努力しましょう」ということです。将来に夢と目標を持って頑張っていると脳の中心部からドーパミンという物質が出てきて、それが脳でもっとも大切な前頭前野に繋がってきます。ですから目標を持って頑張るということは大切なことです。しかし、環境が変わりドーパミンを出しても成果が上がらず、ノイローゼ気味になってくることがありますが、それはセロトニンという物質の不足と関係があります。先ほど理事長も話されましたが、人のために尽くすことをするとセロトニンがいっぱい出てきますから、そういうことも心掛けて留学生活を送っていただきたいと思います。

新入生代表挨拶

東京工業大学　イット・ウィサル

私はカンボジアの田舎地方に生まれ、６人兄弟の次男として育ちました。将来は母国の大学で教鞭をとる仕事に携わり、困窮しているカンボジア地方の人々を精神的に支えながら教育の大切さの意識を広げていきたいという夢と持っています。

新入生を代表してスピーチするイット･ウィサルさん

皆様、聞いたことがありますか？私の母国であるカンボジアは20数年にわたった内戦で、特にポル・ポト時代にたくさんの有能な人材が殺されてしまいました。現在は平和を取り戻しましたが内戦時代に生き残った人は無学の人が多く、その影響で子供の進学率、高校卒業率も低かったのです。市民の貧困もひとつの原因ですが、勉強をしても結局田んぼの仕事しかないという市民の狭い考え方があるからです。ですから、私は大学の教員になって教育の大切さの意識を広げていきたいと考えております。貧困を抜け出すには勉強しかないという考えに変えてほしいとも思っています。そうすれば、いつかカンボジアも日本のように、多くの有能な人材を輩出して支援を受ける側ではなく、後進国へ支援を行うような国になり、そして世界の平和にも繋がると思っています。

奨学生の皆様も色々な夢を持っていると思います。そして今までその夢に向かうなかで色々な困難に直面したとき、諦めたいと考えたこともあるのではないでしょうか。私もそういう時がありました。しかし、世の中には学校に行きたくてもいけない、勉強したくてもする機会がない人たちがたくさんいます。そういう人たちのことを考えると私たちはまだ恵まれている環境にいます。そしてその人たちを助けるのは、勉強の機会を与えられた私たちではありませんか？ですからその人たちの為にも頑張っていきましょう。

最後に竜の子奨学生を代表して秋元理事長をはじめ寄付者の皆様、竜の子財団の関係の皆様に御礼を申し上げます。皆様から頂く奨学金は大切に使わせていただきます。私は皆様のご期待に応えられるよう学業に専念するとともに、国際交流を通じて日本と母国を結ぶ掛け橋となって活動して行きたいと思っております。

（担当：平成25年度竜の子奨学生　電気通信大学　グエン・ドク・ティエン）

●祝　賀　会●

贈呈式に続き、祝賀会が開催されました。ご来賓の山下泰裕様から示唆に富むスピーチを頂いた後、新入生と卒業生の代表より感謝の言葉を寄付者に述べました。最後に奨学生の皆で当財団の歌「その夢はきっと世界を変えていく」を合唱し交流会が終了しました。

理事長挨拶　理事長　秋元 竜弥

私共がここまで来れましたのは、本当に皆様のお陰だと思っております。日本の25指定大学から、アジア13か国、延長含め240名の学生を受け入れて、本日の卒業生11名を含め

て97名の卒業生を送り出すことができました。すでに第１期生第２期生が社会で活躍しております。中国で言えば、清華大学、武漢大学で講師をしている人、日本でいえば東京芸術大学で講師をしている人、もしくは企業なら、ベトナムでベンチャー企業を立ち上げている人、中国で水質汚染のベンチャー企業を立ち上げて、すでに活躍し始めている学生がいます。これは本当に、私も含め竜の子奨学生のOBたちも本当に皆様方に感謝をしております。

来賓挨拶兼乾杯
東海大学理事・副学長
評議員　山下 泰裕 様

山下 泰裕 様

竜の子の卒業生、新入生の皆さん、本当におめでとうございます。秋元理事長が撒かれた種が一本の木となって、しっかり根を張って大きな木となり、先々日本とアジアの国々を結ぶ架け橋に、それからまた竜の子財団で培ったアジアの様々な国々と交流をして、アジアが平和に発展していくという社会を竜の子奨学生が担いていく夢を描きながら、評議員の一人としてこれからも務めていきたいと思っております。さらに、ご支援いただく皆さんにもお礼を申し上げます。

今日理事長は、３つの豊さの話をされました。人の役に立つ、人に手を差し伸べる話をされました。これと関連した私の大好きな話の１つを、この場を借りてお祝いの言葉として送りしたいと思います。

これは京都のお寺での話です。檀家の方がお上人さんに質問されました。「お上人さん、天国はどんなところですか、地獄ってどんなところでしょうか」それに対して、お寺のお上人さんはこういう風に答えられたそうです。「天国も、地獄も実は同じようなところだ、ただ違うのはそこに住む人の心の持ち方が違う。極めて分かりやすい話をしよう。目の前に大きな鍋がぐつぐつと立って、そこにおいしいうどんが茹で上がったイメージしてください。このうどんを食べるためには、１メートルくらい長い箸を使わないと食べられない。地獄では人に食べさせまい、少しでも自分が食べようと思って、一所懸命取ろうとする。しかし、１メートルの箸は自分では食べられないですね。結果として、うどんを食べる場は修羅場になって、誰もおいしいうどんが食べられない、それが地獄である。」

同じ場で、しかし、天国は、長い箸を持った人は隣の人に、お先にどうぞ！言われた方が、ありがとうございます。そして、頂いている方が次にあなたどうぞ。皆が落ち着いて静かにおいしいうどんを食べることができる。我々の心の持ち方次第でその場が天国になるし、地獄にもなる。こんな話でございます。私は人一倍欲望の強い人間だと思っています。人一倍幸せになりたいと思います。確実に幸せになる方法が１つあります。それが自分の周りにいる人の幸せのために汗をかくこと。「お先にどうぞ。」と、この精神をもってやれば必ず幸せになっていくと思います。卒業される皆さんも日本に来られて、奨学金を受けるまでは大変な苦労されたと思います。一所懸命勉強に、研究に励まれたと思います。一所懸命努力された分だけ成功してほしいし、幸せになってほしい、そして将来日本とアジアの国々を結ぶ架け橋になってほしい。そのために、私が大事だと思うのは、理事長が言った３つの豊さ、あるいは困った人に手を差し伸べる、私のうどんの話、こういった心が大事ではないかと思います。

私も実は27才のとき念願のオリンピックで優勝することができました。最近の日本の選手はオリンピックで勝って、恩返しがしたいとよくそういう話をします。素晴らしいことだと思います。正直私の場合は違いまして、自分のためにオリンピックで勝ちたい、色々な人の支えで勝たせていただき、オリンピックが終わった後が私の恩返しの人生だ。欲深い私ですが、人一倍幸せになるために私も自分のできるところで、周りの人に手を差し伸べたいと思います。

卒業生ビデオレター
立命館アジア太平洋大学　杜 銘雨

卒業生　杜 銘雨さん

去年の９月に大学を卒業しまして、そして日本企業での就職も決まりました。この４月から富士通システムという会社で働くことになりました。ビザの関係で直接に卒業式に参加できなくてとても残念ですが、このビデオを通じて自分の気持ちを伝えれば嬉しいです。私は竜の子財団に１年６か月しか在籍してないですが、皆様から頂いたものが自分の一生の宝だと思います。

来賓挨拶　金田 竜一 様

左より金田様、梶賀様

第20回交流会を関わらせていただいた金田竜一、梶賀と申します。まだまだ若輩者ですが、最近は年を重ねていくことに、仲間っていいなと感じたことがあります。その思いを感じさせてくれたのは第20回交流会のOB会でした。初めはただ単にお手伝いをして、上手くことが回れば良いかなと思ったところもありますが、１期生から６期生、OBの方々のお子様を披露する姿だったり、近況を話し合ったり、和気藹々している姿を見ていると、「お互いに奨学生にしか分からない苦しみや楽しみ、一緒に過ごした時が

強い絆になったのだなあ、仲間っていいな」とすごく感じさせていただきました。本当に心から感謝しています。

新入生代表挨拶　立命館アジア太平洋大学　モハメド　サルージ　イシレット　アハマド（スリランカ）

新入生代表 モハメドサルージ イシレット アハマドさん

私の生まれ育った町は山に囲まれた美しい場所です。私は立命館アジア太平洋大学の国際経営学部で学んでおり、昨秋に３回生になりました。この度は、竜の子財団の奨学生として採用していただき、とても感謝しております。奨学金を頂くことでより一層私の将来目標において追い風が吹くことと確信しています。

私が医療製品のによる病気で苦しむ人々に役に立ち、少しでも豊かな生活をもたらしたいと考えて、将来は起業家としてこうような社会問題を解決することが私の夢であり、また国と国の架け橋になりたいと考えています。

大学では国際貿易や国際取引に関する授業を積極的に履修しており、将来起業する際、その知識が役に立つと思い、また卒業にあたり、日本の貿易関係会社で10年間働き、貿易実務や知識を学び、将来起業に向けて準備するつもりです。日本で10年間働く中で、国際的な市場ではどのようなビジネスが国と国の間に役に立つのか、あるいは必要とされるかを見極めようと思います。私が初めて、スリランカから日本に来た時、まったくと言って良いくらい日本語が話せなかったが、日本語の授業を積極的に履修し、ビジネス日本語が出来るくらいまでに上達しました。今後奨学金の援助を活用し、日本語だけではなく日本の文化についても学ぶため国際交流活動に積極的に参加したいと考えております。その活動で、よりその国の身分や考えを学び、お互いに分かり合えるような良い関係を築きたいと思います。

卒業生代表挨拶
北海道大学　王 俊紅（中国）

卒業生代表　王 俊紅さん

卒業の際に、いままでの留学生活を振り返ってみると、異なる環境に慣れない落ち込みや故郷を想う時の涙や、研究がうまく進められた時の歓びなど、一生に忘れられない思い出が沢山ありました。私は文系出身ですが、日本では文系の学位を取るのは時間がかかると聞きました。その時は、頑張れば大丈夫かなと思っていましたが、実際は研究と生活の両立は想像以上に難しかったです。今までの人生で最も辛い時期でした。その際、竜の子奨学生として採用され、希望が見えました。秋元理事長を始め、竜の子財団の皆さんから、笑顔で困難と向き合うのが一番大事だと学びました。そのお陰で、私は今所属している研究室の中で最短の４年間で博士論文を完成させました。日本で念願の博士学位を獲得し、本当に夢を実現しました。これから、日本で勉強したこと、肌で体験したこと、心で感じたことを世界に伝え、もっと沢山の人の夢が実現できるように社会に貢献します。最後に卒業生の代表として、竜の子財団の皆様およびご支援をくださった皆様に、心よりお礼及び感謝を申し上げます。

東京芸術大学　班 文林（中国）

卒業生代表　班 文林さん

私は竜の子財団で４年間奨学金を頂き、念願の博士過程を終えてここに立つことが出来て心から感謝しております。

竜の子財団の奨学生になった私は、学問のみならず、多くのことが体験できました。京都、大阪、沖縄、鎌倉、東日本大震災の被災地そして広島への見学旅行など、交流を深めました。また、空手、スキー体験を通じて日本の文化を理解し、大学では体験できないことに挑戦できました。毎年１回の面談では、常に私達を温かい目で見守ってくださり、経済面だけではなく、心まで捧げてくれました。共に笑い共に泣き、共に歩き、貴重な４年間を過ごせてきたのは皆様のおかげです。輩出された卒業生達が各々の道を磨き上げ、鍛えられたスキルや経験を用いて、起業したり、政界に入ったり、教授になったり、様々な形で世界平和を促進し、恩返ししていくでしょう。最後、竜の子財団の益々のご繁栄、奨学生の輝かしい未来を心から願い、お礼の言葉に代えさせていただきます。

閉会の挨拶
NPO法人全世界空手道連盟　新極真会
代表　緑 健児 様

緑 健児 様

日本とアジアとは深い繋がりがあります。秋元理事長がこの竜の子財団を創設し、アジアの国々との架け橋が出来、これからアジアの地域はもっと強くなれると信じています。空手の武道精神の中に、強くなればなるほど人にやさしくという思いやりの精神があります。辛い時、アジア中に仲間がいるので、いつでも私たちに相談してください。最後まで諦めずに困難を乗り越えて頑張ったら、必ず夢は叶うものです。

（担当：平成25年度竜の子奨学生　一橋大学　季 雯卿）

平成25年度新入生紹介　新竜の子奨学生たちの「座右の銘」

新年度の竜の子奨学生として竜の子大家族に入ることが出来、本当に恵まれていると思います。さらに先輩や仲間たちとの交流を通して、夢にも人生にもいろいろな大切なヒントをもらいました。これから迷わずに人生の夢を実現するためもっともっと頑張ります。さて、新入生の私たちのまだまだ新鮮な座右の銘を紹介いたします。

アンガライニ スリアユ

（インドネシア・バチュサンカル出身）
九州大学大学院
総合理工学府
物質理工学専攻　博士課程３年

私は中央ジャワ州のセマラン市で生まれ、西スマトラ島で育ち、今は福岡に住んでいます。私の座右の銘は、古代中国の哲学者である老子の言葉の中で一番良く覚えている、「知らないことを知っている人は賢い人」という言葉です。人間として、本当の人生や世界のことについて分からないことがたくさんあると思います。なので、これを実現するため、いつも新しい事を学ぶ人は本当の賢い人です。これは自分の夢を達成するためにも非常に重要なことだと、私はいつも信じています。

モハメド サルージ イシレット アハメド

（スリランカ出身）
立命館アジア太平洋大学
国際経営学部
国際経営学科３年

私は目標に向けてチームをまとめて、人を導くことができます。また起業家として成功を収めることが私の夢です。夢を持つことは日々の生活を豊かにし、自分以外の人々にも良い影響を与える力があると考えています。私は国と国の架け橋となるような会社を起業したいと考えており、大学の授業では国際貿易や取引を中心に専攻しています。私は「頑張らない人に幸せな雨が降ってこない」という言葉を座右の銘として、毎日の勉強と生活に頑張っています。

季（キ）　雯卿（ブンキョウ）

（中国・上海市出身）
一橋大学
商学研究科
会計・金融専攻　修士２年

私が母国の生活を終えて日本に来てからもうすぐ４年間が経ちます。最近特に「冥利」という言葉に感銘しています。それはある立場にいることによって受ける恩恵だと捉えています。生活や学業など多面で様々な方々からお世話になり、今までの人生を大切にする姿勢で、冥利に尽き将来をお迎えに行かなくてはならないと思うし、社会人としてよりしっかりしないといけない義務があります。まだまだ未熟ですが、今後ともよろしくお願いします。

ビクラマシンハ ナヴィンダ キトマル

（スリランカ・コロンボ市出身）
九州大学大学院
工学府　航空宇宙工学専攻
博士課程１年

「努力は裏切らない」というのが私の座右の銘です。
どのような挑戦にも最善を尽くして努力するのが私の特徴であり、目標が達成したとしてももっと高い目標を目指し、達成していないとしても不十分なところを把握して再度積極的に努力するようにしています。今まで努力を続けてきて、約８年間充実した留学生活を送ることができました．これからも博士課程に挑戦し、一生懸命研究を行って良い成果を残していくため、多少壁にぶつかることがあってもそこで諦めず、様々な工夫をしながら目標を達成していきたいと思っております。

徐（ジョ）　ミンジョン

（韓国・ソウル市出身）
筑波大学
人間総合科学研究科　芸術専攻
博士課程３年

天は自ら助くるものを助く（Heaven helps those who help themselves）。‘自ら助くるもの’とは、自分自身のことを言います。自分が願うことを成し遂げるために努力する人は自分の夢を叶えると思います。そしてミスすることを怖がらなく、もし自分の判断が今、間違っているとしたら、その間違った経験さえも自分にとって貴重な資産になると信じることです。間違いの瞬間は大変だが、失敗を通じて得た資産から実現した成功はどんなものより価値があると思います。もちろん、これはすべての基本であり、何より重要なのは、‘自分を信じる’ということでなのす。

リム ヤンクアン

（マレーシア出身）
名古屋大学
工学研究科
機械理工学専攻　修士２年

技術を学ぶために2007年に来日し、今年で７年目になりました。もし無事に卒業できれば、来年からエンジニアになります。しかし、自分が今まで身に付けている知識や能力がまだ不足だと日々感じています。そのため、もっと勉強を頑張らなければならないと思ってます。また、人生も短いと感じますので、色々なことを経験したいです。例えば、世界一周旅行したり、様々な文化を体験したいという夢もあります。人間の寿命に限りがありますので、周りの人を大切にしながら、悔いが残らないようこれからの人生を送って行きたいと思います。私の座右の銘は「人生は長さではない。質である！」です。

イット ウィサル

（カンボジア・タケオ県出身）
東京工業大学
理工学研究科
土木工学専攻　修士２年

私の座右の銘は、「私の助けを待っている人がいる」です。私たちが座って勉強している時に、学校に行けず労働者として働いている貧困国の子供たちがいます。私たちがご飯を食べている時、一日イモ一本だけで食べているアフリカの貧しい人たちがいます。人間は出身の国、民族、家族によって、未来の可能性もそれぞれ違うと思います。今、無力を感じている自分はどのようにその人たちを助けるのか分からないが、少数の人だけでもいいから、いつか助けることができるようになるため、困ったとき「諦めたら、自分の助けを待っている人たちはどうなるのか」と考えながら頑張って乗り越えます。

グエン ドク ティエン

（ベトナム・クアンビン省出身）
電気通信大学
情報システム研究科
社会知能情報学専攻　修士２年

私の座右の銘は「生きていくうえで相手と信頼を築いていくことを大事にする」です。

人間関係において信頼関係が一番大事なものだと考えています。信頼とは相手のことを信じて頼ることであり、簡単に築けるものではなく、壊れやすいものだと思います。誰にでも良い面と悪い面の両方があるというが、お互いにそれを認め合った上で信頼関係が生まれて仲間になり、共に成長できると思います。企業でも同じことです。企業の間に信頼関係が出来れば意見や観点が違ってもお互いにきちんと話し合うことが出来ることを、私は仕事を通して勉強しました。そこでこれからも信頼できる人間関係を築いて行きたいと思います。

朱（シュ）　琳（リン）

（中国・黒竜江省出身）
東京外国語大学
総合国際学研究科
国際協力専攻　修士1年

私の座右の銘はある有名な日本語の歌の中の言葉です。「生まれるとき一人、最期もまた一人、だから生きてる間だけは、小さなぬくもりやふっとしたやさしさを求めずにはいられない」

人間というのは一人で生まれ一人で死ぬものなのです。周りにぬくもりを与えたりもらったりしたら、はじめて孤独ではなくなり、人生を楽しむようになります。それは人間のことだけではなく、国と国の間もそうだと思います。だから、この世界では協力というものが必要なのです。それは他人（他国）のためだけではなく、自分（自国）のためなのです。憎しみをもって生きるのが、人間でも国でも望ましくないと思います。これから、自分の研究によって、世界中の人々と国々の理解を促進し、憎しみを解消して、誰もが人生を楽しめるよう頑張ります。

馬（マ）　瓊（ケイ）

（中国・山東省出身）
東京大学大学院
工学系研究科
機械工学専攻　修士１年

「未来は自分の夢の素晴らしさを信じる人のものである。」―未来への憧れは人の生きる動力だと信じています。

日本語を大学時代から勉強し始め、日本との縁もその時から結びました。大連理工大学を卒業し、現在東京大学大学院の金子・山崎研究室でHCCIエンジンの制御に関する研究をしていて、マツダ自動車会社と関連研究を行っています。

自分の趣味は多くの方と同じように旅行することが好きで、今年「八重の桜」の撮影地に行って、初めて浴衣を着ました。写真はその時撮ったものです。そして、毎週学内ジムに通って、リラックスできるヨガもやっています。

（担当：平成25年度竜の子奨学生　東京外語大学　朱　琳）

竜の子近況報告

電気通信大学「産学官連携DAYと合同プログラム」のために、研究室プレゼンテーションをしています。

林（リン）　熙龍（キリュウ）（中国・福清市）
電気通信大学　情報理工学研究科
情報・通信工学専攻　修士２年

「研究を頑張っています！」

昨年11月から約半年就職活動に全力を尽くしてきたので、４月に日立製作所情報通信システム社の内々定を頂きました。就職が決まったので、あともう１つ大きな課題、修士論文が残っています。直近の目標として、７月に中間発表会があります。そのために、論文を読んでいたり、プログラムを作成したりなどをしています。また、８月中旬に理化学研究所の研修生として一週間、神戸でソフトウェア開発と研究発表などの研究活動を行うことになっているので、中間発表が終わった後、全力でそれらの準備をしたいと考えています。今年は私にとって最後の学生生活なので、将来自分が後悔しないように、残りの学生生活を大切に送っていきたいと思います。

国立京都国際会館にて

アンガライニ　スリアユ
（インドネシア・バチュサンカル）
九州大学大学院　総合理工学府
物質理工学専攻　博士課程３年

「固体イオニクス国際学会に参加しました」

私は、６月初めに、京都で行われた国際学会に参加しました。新しい研究成果を発表したのですが、発表の前にかなり緊張しました。写真はその時のものです。自分の発表以外に他の研究者の研究発表も見に行ったりして、とても勉強になりました。この学会で、インドネシア時代の同じ大学の友達に出会いました。ずっと会っていなかったので、とても嬉しかったです。残念なことは、夕方の新幹線で福岡に帰らないといけなかったので、長く話すことができませんでした。さらに、京都で観光することもできませんでした。いつか時間があったら、家族と一緒に京都エリアで観光したいです。

ベルギーのルーヴェンにある美術館にて横浜借景チーム（左端が本人）

李（イ）　丞孝（スンヒョウ）（韓国・ソウル市）
東京藝術大学　音楽研究科
芸術環境創造　博士課程２年

「ベルギーとドイツに行ってきました」

現在私は舞台芸術を研究していますが、今年から日本とノルウェーのアーティストと共に「横浜借景」という作品製作に関わることになりました。役割としては、演出家をサポートしてクリエーションに関わったり、記録用のアーカイブを作ったりするドラマトゥルクを務めています。その最初の一歩として、６月10日から24日の２週間にわたりベルギーとドイツの劇場に滞在しながら、作品製作の前段階であるリサーチとワークショップを行いました。来年には日本でも作品が発表される予定ですので、ぜひ見に来てください！！

隅田川にて

李（リ）　双春（ソウシュン）（中国・遼寧省）
東京電機大学　環境化学科
応用微生物専攻　修士２年

「就職先が決まりました」

今年は私にとって、まさに人生の交差点となりました。就職活動のスタートは人より遅かったのですが、約３ヶ月の奮闘の結果、鬼怒川ゴム工業株式会社に内定をいただきました。就職活動を通じ、日本社会の競争の激しさを身近に体験したと同時に、先生から「頑張れ、李君ならきっとできる。もっと日本で活躍し、日中友好に貢献してもらいたい」との温かい言葉をいただき、また家族にも就職活動も大事だけど体も気をつけてとか、友達が多くの会社や就職サイトを教えてくれるなど、多くの人々に支えられていると実感しました。自分はとても恵まれていると感謝しています。現在は残った学生生活を無駄のないよう勉学に励んでいます。社会人になってからも日本と中国の架け橋になるように活躍していきたいです。

立命館アジア太平洋大学国際経営学部の学長と私

モハメド サルージ イシレット アハメド
（スリランカ）
立命館アジア太平洋大学　国際経営学部
国際経営学科３年

「勉強や交流活動を頑張っています」

今学期私は「グローバルキャリアチャレンジプログラム」というプログラムに参加致しました。事業展開する企業からの課題に対して、ディスカッションを行い、チームごとに解決策を作成しました。このイベントからチームワークやコミュニケーションスキルを高める事ができました。その上、留学生としてボランティア活動や様々な国際交流に参加して地域の人々の親密な人的つながりを作ることに全力を尽くしています。就職活動の方も近いので専門的な勉強と日本語の勉強の方も頑張っています。日本の会社で働くことは、国際的なビジネスを学べるチャンスだけではなく、効率良い会議を実行する力や、様々な人の意見を聞き、まとめる力を身につけることが出来ると考えております。

学会後の高級なバンケット（右から４番目が本人）

リム　ヤンクアン
（マレーシア）
名古屋大学　工学研究科
機械理工学専攻　修士２年

「頑張っています！」

最近韓国の釜山で開催されたICMDT（International Conference on Manufacturing, Machine Design and Tribology）という国際学会に国際発表しに行きました。この学会に参加するための準備は数カ月もかかりましたが、発表は一瞬で終わりました。この一瞬の輝きのために、数か月または数年間の努力をされた教授方に尊敬をしました。

話が変わりますが、私はアイシン精機という小さな自動車部品メーカーから内定を頂きました。６社にエントリーシートを提出し、最終面接まで行ったのが４社で、２社から内定頂きましたが、アイシン精機に決めました。就職活動の期間は短かったですが、楽しかったです。残りの学生生活を自分が後悔しないように過ごしたいと思っています。夏休みの交流会で皆様と会えるのを楽しみにしています！

内定のお祝いパーティーにて（右から２番目が本人）

イット　ウィサル
（カンボジア・タケオ県）
東京工業大学　理工学研究科
土木工学専攻　修士２年

「就職が決まりました」

進学するのか就職するのか、迷っていた中、１社応募してみたところ、内々定を貰って就職することを決意し、来年からは大成建設で働くことになりました。

最近では、学会提出の締切が迫ってきて先生もプレシャーをかけてきたので、両方の解析と実験で毎日昼晩ともコンビニお弁当、終電のギリギリの生活を送っています（笑）。そんな厳しい先生ですが、思わず就職内定祝いパーテイーを開いていただきました。また、夏の交流会を楽しみにしています。

桂山の研究室を歩いて征服（次は走って？？）

金（キム）　兌炫（テヒョン）（韓国・ソウル市）
京都大学大学院　工学研究科
機械理工学専攻　博士課程２年

「卒業に向かっての第一歩」

昨年12月に研究室が桂山にあるキャンパスに移転し、今は毎日30分くらい桂山を登山し研究室に来ています。それと今年の５月に次女の姉さんも結婚することになり、家の残りの問題児（笑）は自分のみになりました。最近は卒業をする為に必要条件にもう一歩近づくために、今までの研究を整理および修正を行い、新しい研究内容を考える充実した毎日です。しかし、研究生活のみではストレスや思い出がなく最後の学生生活が終わりそうだと考え、日本人との交流を深めるためにまず一つとして「ディベート甲子園」に審判として参加することを計画し、更に自分用として趣味の生活（まだ秘密です）を始めようとしています。

スタッフ活動にて（右上が本人）

徐（ジョ） ミンジョン（韓国・ソウル市）
筑波大学　人間総合科学研究科
芸術専攻　博士課程３年

「日本デザイン学会第60回春季研究発表大会に参加しました」

2013年６月21～23日、日本デザイン学会 第60回春季研究発表大会が筑波大学で開催されました。私は「都市街路景観における地域らしさの評価―地域らしさの評価構造と色彩要素の影響を中心に―」で、今学期の研究内容を発表させていただきました。学生ワークショップに参加し、お互いの研究についてディスカッションしたり、また大会期間中、筑波大学の実行委員会スタッフ活動をするなど、とっても充実な学会になりました。筑波大学は今年から２学期制になって、夏休みは８月から始まります。８月２日に、博士後期課程の研究成果発表会があるので、続けて研究を頑張りたいと思います。夏の交流会を、楽しみにしています。

体育祭にて

マハルジャン　スニル
（ネパール・KATHMANDU）
東京電機大学
情報環境学部　情報環境学科４年

「体育祭に参加しました」

東京電機大学鳩山キャンパスで行われた、千住キャンパス・鳩山キャンパス・千葉キャンパスの学生が合同で参加する体育祭に参加しました。母国ネパールの体育祭と違う、様々なスポーツを体験しました。１番印象に残っているのは『騎馬戦』で、『棒引っ張り』もネパールにはありません。私は怪我なく無事でしたが、倒れたり、動けなくなったり、靴を無くしている学生もいたくらい、とても激しい戦いで熱くなりました。このような競技はネパールにはないですが、特別な道具は必要なく、人がいればすぐ出来るスポーツです。とても楽しくて面白い発見がありました。機会がありましたら、ネパールでも騎馬戦をやってみたいと思います。

福岡空港自衛隊基地で練習機のコックピットに乗った私

ビクラマシンハ ナヴィンダ キトマル
（スリランカ・コロンボ市）
九州大学大学院　工学府
航空宇宙工学専攻　博士課程１年

「夏に向けて充実した生活に挑戦しています」

今学期は様々な活動で忙しく、日常生活をうまく進められるように頑張っています。投稿論文や国内外の様々な学会の原稿の提出の締め切りが近づいてきており、いかに効率良く時間が使えるかが勝負となっています。

さらに、私が所属している部門では、７月に、研究室対抗のソフトボール大会が開催され、私はピッチャーの役割を果たしています。これは研究でのストレスが発散できるいい機会なので、後輩たちと積極的に練習に参加したり戦略を立てたりしながら、優勝を目指して最善を尽くせるよう頑張っています。では、夏の交流会で皆さんと再会できることを楽しみにしています。

女神様のトーチの下で

グエン ドク ティエン
（ベトナム・クアンビン省）
電気通信大学　情報システム研究科
社会知能情報学専攻　修士２年

「中間発表を無事に終了しました」

４月初めに新学生を迎えるとともに１年次に得た研究成果を発表する中間発表会が行われ、私が無事に発表を終了しました。私にとってはじめて学術的な発表会で発表しましたので少し緊張しました。また発表のために論文を精読したりプログラムを作成し実験をしたりすることより、研究がどういう風なのかを感じることができました。その時は学生生活で忙しい日々を送っていました。来年に博士後期課程に進学することを目指してこれからも引続き研究を全力で取組んでいます。また年内の国際会議に論文を投稿できるように目標として頑張って行きたいと思います。それに10月には博士後期課程の試験もありますので英語試験なども少しずつ準備しています。

学会後の打上げにて（右から4番目が本人）

李（イ）　大英（デイヨン）（韓国・ソウル市）
北海道大学　水産学部　修士１年

「名古屋で行われた栄養・食糧学会に参加しました」

今年５月に名古屋で行われた学会に参加してきました。今までの研究成果を発表し、先輩と先生たちとお話ができてとても有益な時間を過ごしました。学会で感じた一番大きなことは、私はまだ素人で分からないことが多く、もっと頑張らなければならないということでした。また、普段自分の研究で忙しくなかなか周りの人達の研究に興味がなかったが、視野を広げることも大事であることを気づきました。最後に、この写真は学会が終わってから先生や先輩たちと名古屋名物の‘ひつまぶし’を食べに行った写真です。次回は遊びに行きたいです。

目指せ！無事故無違反

朱（シュ）　震（シン）（中国・陝西省西安市）
京都大学　経済学研究科　経済学専攻　修士２年

「勉強と免許を両立していきます」

私は就職活動を終了して、残り一年の学生生活を満喫しています。最近は企業プロジェクトと卒業論文以外、自動車学校に通っています。そこで、「運転は性格を映す鏡」という言葉を実感できました。私の性格は「物事をパターン化する傾向が強い」との特徴があります。実際、運転練習をする時、突然「次の交差点はさっきと違って右折するよ」と言われた時、ついさっきと同じような左折の準備をしてしまうことがありました。そこで今回の教習を通じて、物事の対処をもっと柔軟的にできるようになりたいと思います。

学会の懇親会にて（右端が本人）

季（キ）　雯卿（ブンキョウ）（中国・上海市）
一橋大学　商学研究科　修士２年

「学会のお手伝い」

６月の日本金融学会春季大会は本学で開催されました。大学院生の私はお手伝いさせていただく機会を貰って、多くの関係者と一緒にお仕事するようになりました。こちら写真は先週の反省会という名目の懇親会で取られたものです。この度、非常に貴重な機会で色々と勉強させていただきました。目の前に日銀総裁が通りかかって微笑んだ姿が心に刻まれました。学者として尊敬するTirole先生のEUをテーマにした講演も大変素晴らしかったです。学会という特有の堅いイーメジがありながらも、素敵なメンバーが集まって内容満載の学会だと感じました。

福島県会津若松市 学内留学生旅行（左端が本人）

馬（マ）　瓊（ケイ）（中国・山東省）
東京大学　工学系研究課　機械工学専攻　修士1年

「マツダと関連研究した」

修士課程の１年目がもうすぐ終わるところで、時間の経つのが予想よりも早かったです。今学期は研究を中心に頑張って、MatlabでHCCIエンジンのモデルのシミュレーションをし、マツダ株式会社との関連研究も始めました。研究で悩んでいた時もありますけど、少しでも進歩している研究報告を見ると、また全力で勉強できます。３月、大学内の留学生と「八重の桜」というNHK大河ドラマの撮影地の会津若松市に行きまして、浴衣も日本へ来て初めて着て、ワクワクしました。山本八重さんの戦いの一生を見て感動しました。６月中旬には福岡におけるFIV研究会を参加し、一人だけの外国人発表者として発表しました。

家族一緒に横浜へ

呂（ロ）　思文（シブン）（中国・遼寧省）
東京海洋大学 海洋科学技術研究科 食機能保全科学専攻 修士1年

「充実なM1生活」

今年大学院に入ってから、実験は順調に進んでいますが、英語で行う授業が増えていて、英語が苦手の私にとって、非常に大変なことになりました。そして、私の研究室が２年後になくなるということになり、来年から先輩が卒業すると、ほとんどの仕事を１人で頑張るしかないから、今のうちに一生懸命いろいろなことを覚えていて、本当に充実した毎日を過ごしています。

前回帰国以来、もう２年間が経っており、６月中旬に両親が日本に来てくれました。久しぶりに両親と一緒に浅草、鎌倉など名所をまわって、日本文化を体験し幸せな１ヶ月を過ごしました！

（担当：平成24年度竜の子奨学生　京都大学　朱　震）

ボランティア報告

「Sports of Heart 2013」に参加して

（障害者スポーツを応援するスポーツと文化のコラボレーションイベント）

私たちが生きているこの世界には195の国があり、約70億人の人々が生きています。国により、様々な文化や個性の異なる人々がいますが、そんな世界に共通する文化の１つが、スポーツです。そして、スポーツは、障害の有無に関わらず一緒に楽しむことがとても大切です。そのために、健常者と障害者の枠を超えて、お互いに助け合い、敬う気持ちがとても重要で欠かせないものです。

今回私たち竜の子財団の奨学生は、５月５日と６日に代々木第一体育館で行われた「Sport of Heart」のプロジェクトでボランテイア活動を行いました。本イベントは、スポーツを、障害のある人とない人、特に子供たちが一緒に体験することで、お互いの理解を深め優しくなっていこうというものです。体育館内には、いろいろなスポーツを体験したり、ライブやトークを観たり、パラリンピック選手、スポーツ選手やアーティストのパフォーマンスを観ることができました。

私たちは、朝９時から夜８時まで、チケットチェックや来場者数の登録、パンフレットを配ったり、お客さんを案内したりしました。来場されたお客さんは、子供からお年寄まで、その中には外国人のお客さんもいました。受付の担当である外国人留学生の私たちは、日本語で、時には英語でお客さんを案内することができました。「世界一だと言われる日本のサービス」のことを思うと、受付でお客さんを直接案内するという重要な役割に外国人である私はうまく果たすことができるかどうかとの不安がありました。しかし、皆の協力で、無事に役割に徹することができました。「さすが、竜の子財団の奨学生！日本語も英語もできて、助かった。」とのイベント担当者からの一言を聞いた時は、とても嬉しかったです。

ボランテイア活動に参加する竜の子奨学生の私たちは、２つのグループに分かれて交代で仕事をしていました。私は休憩中にいろいろなパフォーマンスを見ることができました。その中で、一番印象に残ったのは、健常者と障害者との共同ファッションショーです。そのファッションショーを見たことで、私は改めて人の心の本当の強さを感じることができました。ステージに立てパフォーメンスをしてくれた障害者の心の強さ。

人は誰もが、弱っている人を助けることができる優しい心を持っていれば、世界は変わります。人と人が協力し、助け合い絶対に切れることのない団結力が重要です。それは世界共通で、必要欠かせないものだと私は思います。

最後に、椎塚理事をはじめ、ボランテイア活動の機会を与えて頂いた竜の子財団関係者の皆様に御礼を申し上げます。ボランテイア活動を通じて貴重な経験を得たことと共に、これから、社会に出て、少しでも人のために何か役に立つことがあるのか考えながら、社会に貢献していきたいと思います。

（担当：平成25年度竜の子奨学生　東京工業大学　イット ウィサル）

SPECIAL REPORT

西安と京都と私 ―二つの古き都で感じた縁―

今暮らしている京都は、故郷の西安とは友好都市です。そして、２つの都市はより深い絆で繋げられています。京都に来てから、私は２つの街の間に漂う縁を感じました。

きっかけは不思議な「感じ」でした。

京都に来た時、旅行好きの私はいつものように、目的地もなく街中をぶらぶらしていました。方向音痴ではありませんが、路を２、３回くらい曲がったら、迷ってしまったことがあります。このように「迷子」になったこその出会い（殆ど食べ物）もありますので、私は進行方向に特に注意することもありません。初めて来た、しかも外国の街なのに、自分が進んでいる方向がはっきりわかっていました。

そこで、ふっと気づきました。

ここは、故郷の西安と同じ、碁盤の目の街並みとなっています。

家に帰ってから調べてみたら、西安は中国唯一の京都の友好都市であることがわかりました。でも、街並みが似ていているから友好都市を結んだという単純な理由ではありませんでした。日本と中国の文化歴史の関係を考えると、この「似ている」の背後には、きっとより深い繋がりが存在していると思い、さらに検索を進めました。

京都市の中心部、昔の平安京に当たる部分は、まだ「長安」と呼ばれていた古い時代の西安市をモデルにして建てられました。実際考察してみますと、街並みの特徴がほぼ一致する事に気づきました。中心部は、街並みは共に「大路」と「小路」によって四方形に分割されています。それに加えて、辺縁部には複数の「門」が設置されています。その中で、一番共通しているのは、２つの街の正南部にある、中国の伝説上の神鳥の名を冠した「朱雀門」でした。残念ながら、京都のほうは1227年に焼滅し、朱雀門跡となりました。

西安朱雀門

京都朱雀門跡

起源が共通の「長安」であっても、国の文化が別々で、異なる発展の道を歩んでいけば、自然に区別が生まれます。たとえば、京都の街中にある歴史的建物はお寺や神社が主になっていますが、西安では遺跡のほうが多く見られます。また、工芸品の伝統が多く見られる京都に対して、西安の伝統は秦腔などの劇に代表されています。一見では街の建築物のスタイル、人々の習慣、街の名物などみんな違います。しかし実際、西安にしても京都にしても、街の特徴をまとめてみると、ほとんどの場合は「古跡」「祭り」「食べ物」「民俗」にあてはまります。なぜなら、それらのキーワードはその国の特徴を一番代表できるからです。そして、この２つの街はまさにこのように国の文化伝承という重大な役割を果たしているのではないでしょうか。

その中で、私が一番印象深かったのは「祭り」です。

西安では、毎年の「元宵節」（旧暦１月15日、灯節とも言われる）の祝いとして、城壁の上に「西安城壁提灯祭り」が開催されます。この祭りでは、城壁の上下内外に形やサイズ、構造が違う提灯の海となって、さらに民俗演出も加わります。子供の頃からは、この時期に故郷にいれば必ず友達と一緒に行くようにしていました。毎年、数え切れないほど異なる綺麗な提灯を見て、ワクワクし新たな一年を迎える気持ちは今でも忘れません。

西安城壁提灯祭り

祇園祭

そして京都では、「祇園祭」は絶対に見逃すわけにはいきません。最初に祇園祭に行って夜の山鉾を見たとき、一瞬故郷に戻ったような錯覚がしました。確かに国の文化が違って、祭りの内容も違いますが、そこに託されている人々の願いは一緒だと思います。灯で白昼のような明るさと人々の笑顔によって、悩みなどすべてを一時的に忘れ、勇気付けられて、より良き明日になれるように祈りを捧げます。

京都に来てそろそろ３年目、まだ私が見ていない、知らないものがいっぱいあると思います。私は自分が感じたこの２つの古き都とのつかず離れずの縁を大事にして、もっと京都での留学生活を満喫していきます。

そして、もし機会がありましたら、皆さんも京都と西安の２つの街へ旅行に行って、この縁を是非ご自身で感じてみてください！

（担当：平成24年度竜の子奨学生　京都大学　朱　震）

編集後記

委員長　一橋大学大学院　季（キ）　雯卿（ブンキョウ）

この度、竜の子奨学生の第12号会報誌の編集委員長を務めさせていただきました。初めての編集作業なので、間違いがあるかもしれませんが、皆で議論して、一本の極みを進呈したいという気持ちで作りました。私は「祝賀会」の部分を担当しましたが、今回は色々な反省点があり、特に話し言葉と書き言葉がまったく違うことを感じ、その編集で大変苦労しました。このような機会を与えて頂き、大変勉強になりました。本当にお疲れ様でした。

副委員長　電気通信大学大学院　グエン・ドク・ティエン

この度、「竜の子奨学生」第12号の会報誌の編集会に参加させて頂きありがとうございました。当初、日本語にあまり自信を持っていなかった私は少し不安でしたが、編集委員の皆様のご協力で担当した「第６回卒業式」・「第７回贈呈式」の部分が出来上がりました。録画された音声から内容を聴き取り文書を作成する作業が大変でしたが、色々勉強になりました。この場で編集委員の皆様に感謝致します。最後に、ご支援を下さった寄付者の方々及び竜の子財団の関係者に御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

委員　京都大学大学院　朱（シュ）　震（シン）

会報誌を読んでいただき、ありがとうございます。

今回の会報誌において、私は主にSpecial Reportの部分を担当しました。そこでは、自分の思いを言葉にすることだけではなく、読者にも読みやすいようにいかに工夫するかの大事さを身をもって知り、「作る側」の醍醐味だと気付きました。そこで読む側に良いものを見せたいという温かい気持ちが生まれ、この会報誌をご覧になった方々にもこの気持ちが伝われば幸いです。

委員　東京外国語大学大学院　朱（シュ）　琳（リン）

今年の４月竜の子財団奨学生として大家族に入ったばかりの新入生ですが、みんなと会う度に、いつも不思議に親しく感じられます。今回編集委員を募集するというメールが来て、自分で大丈夫かと心配しながら、「またみんなと会えて、いいんじゃないか」と思って、喜んで応募しました。

自分が主に担当した部分は「新入生紹介」ですが、おそらく一番楽な部分だろうと思いましたが、締切に対する管理で力を発揮でき、さらに日本語に対しても学ぶことが出来、今回の編集を通していろいろ勉強になりました。そして、素敵な思い出も残っています。

最後に、今回の貴重な機会をくださった寄付者様と関係者様、そして協力してくれた編集委員の皆さん、ありがとうございました。

第３回編集会議後にて

第２回編集会議にて

第１回編集会議後にて

ご寄付いただいた皆さまへ

竜の子財団の奨学生の代表として、寄付者の皆様にお礼の言葉を申し上げます。アジア各国から日本に留学していた私達は、それぞれ学業や生活上で様々な障壁とぶつかってきました。皆様からのご支援があればこそ、私達は継続的に日本の恵まれた環境で勉強や研究を進められ、将来において世界中で万遍なく花を咲いて活躍していきます。これからも、私達竜の子奨学生は日々精進し、日本とアジア各国の経済ならびに文化伝承の担い手となり、社会全体に恩返しをします。

（平成25年竜の子奨学生　一橋大学　季　雯卿）

「その夢はきっと世界を変えていく」

作詞：竜の子奨学生
作曲：班　文林（平成21年竜の子奨学生）

夢　希望をかなえる為　僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく　平和のため
いろんな事があるけれども　どんなときでも
仲間とともに乗り越えて　竜の子の誇りを胸に
夢　希望をかなえる為　みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく　かならず

竜の子奨学生 第12号
2013年8月2日発行　公益財団法人 竜の子財団
〒160-0022 東京都新宿区新宿二丁目11番7号 第33宮庭ビル　TEL.03-5367-2002　FAX.03-5367-2155
URL：http://www.tatsunoko.jp/

VEGETABLE OIL INK